

1 単元名 近代国家を目ざして

2 本単元の目標

日本の国際的地位の変化について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、地図や年表を活用したり、教科書や動画で調べたりしてまとめ、なぜ、日本の国際的地位が向上したのかについて考える。また、表現する活動を通して、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解できるようにするとともに、主体的に課題を追究・解決しようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地図や年表などの資料を基に、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展に関する出来事について調べたことを歴史カードにまとめている。 ②世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産に着目して、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産に着目して、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、比較・関連付けたり、総合したりして、日本の国力が向上した理由を考え、適切に表現している。 ②大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて触れ、日本の国力が充実したことを論理的に説明している。	①大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展を手掛かりに、日本がどのように近代化したのか予想し、課題意識をもって単元全体の見通しを立てようとしている。 ②日本の国力向上について、学習問題や学習資料、学習形態を自己選択して学習を組み立て、主体的に課題を追究し、解決しようとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領第6学年の内容(2)日本の歴史(コ)明治中・後期から大正期に基づいて設定している。これまでに生じた諸外国との国力の差により、日本は国際的地位が低い状況で明治時代を迎えた。歴史上で大きな転換点となった明治維新の後、領土拡大や近代化を押し進めるために我が国は戦争へと突き進む。本単元では、これまでに生じた諸外国との国力の差をどのようにして埋め、国際的地位を向上させたのか、多角的に考察し、表現することをねらいとしている。

(2) 児童観

本学級の児童に対し、実態調査(令和7年*月*日実施、第6学年*組*人)を行った。「武士の政治が始まる」の単元末評価テストにおいて、自分の考えを論理的に説明できるかを問う設問に対し、根拠を示して記述できた児童は*人だった。また、「ご恩と奉公の関係が崩れたから」という事実のみ記述した児童が*人だった。さらに、その*人は、その後のペーパーテストにおいて、ご恩と奉公の意味を理解していないことも判明した。このことから、本学級の児童は、社会的事象についての自分の考えを論理的に説明することに課題があることがわかった。

(3) 指導観

本単元では、パフォーマンス課題を軸に複線化授業を組み入れた探究的な学びを行う。第1次では、パフォーマンス課題の設定の工夫と歴史カードの活用を図る。そして、課題意識をもって単元全体の見通しを立てることができるようになる。第2次では、自己選択できる複数の学習問題の設定や多様な資料の活用、三角ロジックの考えを応用したワークシートと国力アップシートの活用、意見交流の充実を図る。そして、習得した知識を基に事実に理由付けした根拠となる自分の考えを記述できるようにする。第3次では、関連図・ピラミッドチャートの活用を図る。そして、蓄積した根拠を総合して自分の考えを論理的に説明できるようにする。

5 単元（題材）の指導計画（10 時間扱い） ○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等・留意点
1	1	明治維新後、日本に訪れた大きな問題とはなんだろう。 ・鹿鳴館の風刺画やノルマントン号事件を基に、不平等条約改正の必要性を考える。 単元を貫く学習問題 「なぜ、欧米の国々は日本との不平等条約の改正に進んだのだろう。」 ・アメリカから届いた手紙を手掛かりに、不平等条約改正の条件とは何かを、手紙の文章から予想する。 パフォーマンス課題 あなたは、日本の外交官です。不平等条約の改正が果たされるかどうかの重要な手紙を、5 日後に返信しなくてはなりません。日本の国務大臣に代わって、日本が進んだ国であることを証明する手紙を用意してください。 ・アメリカが求める国力の意味を自分の言葉で捉え直し、国力それぞれにネーミングする。 ・単元のゴールの姿を自分の言葉でまとめる。				・条約改正の必要性を理解できるようにノルマントン号事件の動画を視聴し、視覚的に捉えやすくする。 ・条約改正の条件が日本の国力向上であることを理解できるように、日本の国際的地位を意識して考えるように助言する。 ○ 態①：「条約改正に向けて日本の近代化を証明する手紙を書く」という単元末の姿を自分の言葉でまとめ、見通しをもつことができているか見取り、見通しがもてていない児童にはアメリカの立場から考え、日本がどのように変化したら条約改正ができるとするか考えるよう助言し、日本が近代化することの重要性に気付けるようにする。 【観察】
	2	空白の 50 年にはどのような出来事があったのだろう。 ・年表を基に、捉え直した国力と不平等条約の締結から改正までの約50年間の社会的事象を関連付ける。 ・条約改正までの約50年間は、日本にとってどのような出来事があったと言えるのか自分の言葉でまとめる。 日本が進んだ国になるために必要な力に関係しそうな出来事が起きていた。	○			知①：国力と関連する出来事について理解しているか見取り、理解が不十分な児童には着目すべき視点を助言する。 【ワークシート】 ◎ 態①：大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展を手掛かりに、日本がどのように近代化したのか予想し、課題意識をもって単元全体の見通しを立てようとしている。 【ワークシート】
	3	空白の 50 年に起きた出来事は、どのような内容なのだろう。 ・条約改正までの約50年間の社会的事象について調べ、付箋に記述し、黒板に拡大した歴史カードに貼る。 ・友達との意見交換や、黒板に拡大した歴史カードを基に、15枚の歴史カードに情報を記述する。	◎		○	知①：年表を基に不平等条約の締結から改正までの約50年間に起きた出来事について、教科書や地図、動画などの資料を活用して歴史カードに必要な情報をまとめている。 【歴史カード】 思①：日本の国力向上に関連する社会的事象について教科書を基に調べ、

		まとめ 空白の 50 年に起きた出来事は、日本が進んだ国になるために必要な力に関係している出来事だった。			適切な情報を歴史カードに表現できているか見取り、表現できていない児童には視覚的に捉えやすい動画を視聴するよう助言する。 【歴史カード】
2	4 5 6 7 ⑧ 本時	1 既習事項を確認する。 2 本時から始まる探究活動の内容や目的を確認する。 3 学習問題を確認する。 ・複数ある学習問題から本時の問いを選択する。			・探究活動を始める前に、内容や目的を確認することで、探究活動の見通しをもてるようにする。 ・児童の興味・関心に基づいて選択できるようにする。
		学習問題① 軍事力を高めたことは、日本の国力をどのくらい上げたのだろう。 【学習問題に関連する社会的事象】 ・日清戦争 ・日英同盟 ・日露戦争 ・朝鮮併合			
		学習問題② 経済力を高めたことは、日本の国力をどのくらい上げたのだろう。 【学習問題に関連する社会的事象】 ・繊維工業の発展 ・八幡製鉄所 ・重工業が発達			
		学習問題③ 政治力を高めたことは、日本の国力をどのくらい上げたのだろう。 【学習問題に関連する社会的事象】 ・大日本帝国憲法 ・選挙 ・帝国議会			
		学習問題④ 文明力を高めたことは、日本の国力をどのくらい上げたのだろう。 【学習問題に関連する社会的事象】 ・北里柴三郎 ・野口英世 ・志賀潔			
		学習問題⑤ 外交力を高めたことは、日本の国力をどのくらい上げたのだろう。 【学習問題に関連する社会的事象】 ・陸奥宗光 ・小村寿太郎			
		4 学習方法、学習形態を選択して、国力を高めた根拠となる情報を収集しワークシートにまとめる。 【学習方法】 ・教科書 ・動画 ・人物像 ・風刺画 ・学習本 【学習形態】 ・個人 ・ペア ・グループ			○ 態②：日本の国力向上について、学習問題や学習資料、学習形態を自己選択して学習を組み立て、主体的に課題を追究しているか見取り、自己選択ができない児童には、声をかけて寄り添い、会話を通して児童の興味・関心を引き出せるようにする。【観察・ワークシート】 ◎ 態②：日本の国力向上について、学習問題や学習資料、学習形態を自己選択して学習を組み立て、主体的に課題を追究し、解決しようとしている。【観察・ワークシート】

5 同じ問いや違う問いを選択した友達と意見交流を行い、調べた根拠を共有する。 6 本時に獲得した根拠を、国力アップシートにまとめる。			◎ 思①：世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産に着目して、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、複数の資料から多角的に考察し、比較・関連付け、総合し、日本の国力が向上した理由を適切に表現している。 【ワークシート】 ◎ 知②：第9時のワークシートに関連付けるために、世の中の様子や人物の働き、代表的な文化遺産に着目して、各社会的事象の内容について探究活動のワークシートが進んでいるか見取り、進んでいない児童には、動画や学習本など、比較的読み取りやすい学習方法を提言する。 【国力アップシート】
問題①のまとめ 日本は日清戦争でアジアの大国中国に勝利し、多額の賠償金や領土を獲得した。また、日露戦争も東郷平八郎などの活躍により、当時最強と言われていたロシア艦隊を撃破するなど、日本の軍事力の高さを証明できた。			
問題②のまとめ 日本は繊維工業を中心に発展し、中でも生糸は輸出量が世界第1位となった。また、日清戦争の賠償金をもとに、近代設備をもつ八幡製鉄所をつくり、造船や機械などの重工業も発達し、軍艦や大砲なども国内で生産できるようになるなど、日本の経済力・軍事力の高さを証明できた。			
問題③のまとめ 日本は天皇中心の国づくりを目指し、皇帝の権限が強いドイツの憲法を参考に大日本帝国憲法をつくり、憲法によって政治を進める近代国家のかたちを整えた。また、板垣退助などの自由民権運動の努力もあったことから、憲法に基づいた最初の選挙が行われ、帝国議会も開かれるなど、日本の政治力の高さを証明できた。			
問題④のまとめ 世界的な医学者である北里柴三郎によって、日本初の感染症の研究所がつくられ、志賀潔や野口英世などの人物たちが育ち、世界的に注目される研究や発見がうまれるなど、世界にも負けない文明力の高さを証明できた。			
問題⑤のまとめ 陸奥宗光は、ヨーロッパで政治を学んでイギリスの治外法権を撤廃させた。また、小村寿太郎はイギリスと同盟を結んだり、ロシアと講和条約を結んだりするなど、欧米の国々と対等に渡り合える交渉力の高さを証明できた。			
7 自分が考える現段階の日本の国力レベルを国力メーターに記入する。また、そのレベルに至った理由を、フォームで送信する。			・国力メーターがそのレベルに至った理由をフォームで確認し、次時の活動時の支援を考える。

3	9	問題 これまで学習してきた出来事や人物は、どのようにつながっているのだろう。 ・ スプレッドシートを活用して、出来事や人物を関連付け、進んだ国になるために必要な力とどのように関係しているのかまとめる。 ・ 進んだ国になるために必要な力を国力を高めるのに影響が大きかった順にランキング付けし、次時のパフォーマンス課題解決に向けた見通しを立てる。 まとめ 進んだ国になるために必要な力に関連して、出来事や人物がつながっている。	◎	○	知②：スプレッドシートにまとめた内容が、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産に着目して、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解している。 【スプレッドシート】 思②：パフォーマンス課題を解決する際に示す根拠の順を整理するためのランキング付けができているか見取り、できていない場合は、国力メーターを使用する時に、最も影響が強いと感じた力を考えるよう促す。
	10	パフォーマンス課題 「あなたは、日本の外交官です。不平等条約の改正が果たされるかどうかの重要な手紙を、5日後に返信しなくてはなりません。日本の国務大臣に代わって、日本が進んだ国であることを証明する手紙を用意してください。 ・ パフォーマンス課題と単元を貫く学習問題に対する自分の考えを記述する。 単元を貫く学習問題まとめ 欧米の国々は、日本の軍事力、経済力、政治力、文明力、交渉力の高さを認めたことから、不平等条約の改正を進めた。 ・ 単元の振り返りを行う。 ・ AIを活用して、条約改正ができるか確認する。	◎		思②：大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて触れ、日本の国力が充実したことを論理的に説明している。 【手紙】 ・ 日本の国力向上について、アメリカの視点から考えて、単元を貫く学習問題に対する考えを記述する。 ・ AIを活用して、探究活動の成果を客観的に評価してもらうことで、児童が達成感を感じられるようにする。